

## 歯科医師の心理学との出会い

北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野 教授

**安彦善裕** (あびこ よしひろ)

ロンドン大学のイーストマン歯科研究所で Oral Medicine (口腔内科) の臨床研修を終え、北海道医療大学病院で「口腔内科相談外来」を開設して 10 年目になります。本外来は、お口の中に気になる症状や状態のある方を対象に開設しています。舌が痛い、口が渇く、味がおかしい、口の中がピリピリするなどの症状を訴える方が多く訪れます。このような患者で、実際に、明らかな病変のある方は少なく、多くは一般に歯科心身症と言われている Medically unexplained oral symptom (医学的に説明困難な口腔症状：MUOS) の範疇に入る方です。MUOS の患者は本外来に来ることは開設前から予想されていましたが、その割合は予想以上に多く、今では患者の 9 割近くを占め、さしづめ歯科心身医療外来となっています。

MUOS の患者の対応には心身医学的アプローチが必要なため、当初、歯科医師である私はこれらの患者は分野外として、治療の多くを心療内科医や臨床心理士の先生方に依存しておりました。しかしながら、MUOS の患者があまりにも多く、これを分野外として片づけられないことにすぐに気がつくこととなりました。自らの治療介入を行うために、心療内科医や臨床心理士の先生方とカンファレンスに参加し心身医療に関する知識の向上に努めてまいりましたが、その度に、心理学・精神医学に関

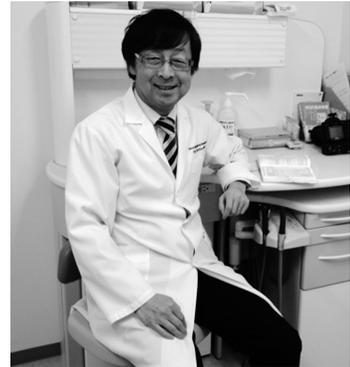
する知識の乏しいことを痛感し、一から心理学を学ぼうと、心理学を学べる大学の通信教育課程に入学することとしました。

大学では 3 学年への編入を許可されたため、最短で 2 年での卒業ではありましたが、大学の教員としての仕事をしながらの勉強でしたので、卒業まで 5 年を費やしてしまいました。この学生時代に改めて感じたことは、興味のあることは学んでいて本当に楽しいということです。また、毎年夏はスクーリングにでかけ、普段の教える側から教えてもらう側にまわり、非常に楽しい学生生活と共に、自分のこれまでの教員としての改善点や反省点なども学ぶことができました。卒業証書が送られてきた時には、寂しささえ感じてしまいました。その後、認定心理士の資格を頂き、言うまでもなくここで学んだ知識を現在の外来の診療に役立てています。

実は、MUOS の患者の 8 割程度は、精神的な分類では軽度の心気症を初めとした軽度の身体表現性障害の範疇にはいる方であり、しばしば精神科や心療内科での治療の対象とならないことがあります。現在では、当初の MUOS は分野外としていた考えを改め、精神科・心療内科で診てもらうべき疾患の併存の有無については細心の注意を払いながら、自ら積極的な治療介入を行っております。また、幸いにも臨床心理士の先生に

### Profile — 安彦善裕

1990 年、東京歯科大学大学院歯学研究科病理学専攻修了 (歯学博士)。2011 年より現職。北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」担当。歯科医師。専門は口腔内科、歯科心身医学、口腔病理学。



「口腔内科相談外来」の診療室にて。

MUOS に興味をもっていただき、これらの患者の心理に関する共同研究を行いながら、新たに「舌痛症の認知行動療法プログラム」を開発し、これを用いた心理学的介入も行っていただいております。

大学院に入学して以来約 20 年は、口腔の病理学を専門とする教育研究者および口腔病理医としての仕事をしてまいりましたが、「口腔内科」という新たな分野の外来を開設したことで心理学と出会うこととなりました。口腔病理医としての診断業務では、ある一定レベルまでの能力を獲得すると、診断に苦慮する症例があまりみられないことから、ルーチンワークとなりがちです。しかし心身医療では、患者がより多彩で、同じ診断名がついてもそれぞれに個性があり、それだけに日々刺激的で、学ぶことにも終わりがみえてきません。心理学との出会いは、私に人生の新たな目標と楽しみを与えてくれています。